

ニッセイ インターネットアンケート

～「夏のボーナス」に関する調査結果について～

日本生命保険相互会社(社長:筒井義信)は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューのひとつとして、ホームページ(<http://www.nissay.co.jp>)内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「夏のボーナス」に関するアンケート調査を実施いたしました。

《調査概要》

- 調査期間：2017年6月1日(木)～6月9日(金)
- 調査方法：インターネットアンケート(「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー)
- 回答者数：7,179名(男性:3,893名、女性:3,286名)

<年代別回答者数>

[名、%]

年代							合計
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
男性	234	538	1,165	1,148	594	214	3,893
女性	248	560	866	911	494	207	3,286
合計	482	1,098	2,031	2,059	1,088	421	7,179
占率	6.7	15.3	28.3	28.7	15.2	5.9	100.0

《調査結果のポイント》

ポイント①

質問 1

- ボーナスの平均支給額は51.5万円で(対前年+1.0万円)となった
- 男女別で見ると、男性は60.6万円で(対前年+1.0万円)、女性は31.9万円(対前年+1.0万円)となった
- 年代別で見ると、昨年度と比較して、20代以下は2.3万円増加しているのに対して、50代は0.2万円増加と、若年の方ほどボーナスの増加額が大きくなった

ポイント②

質問 2

- ボーナスの額を「予想通り」と回答した方の満足度を見ると、「満足していない」と回答した方は38.0%で満足している方(29.5%)を上回った
- 男女別で見ると、「満足していない」と回答した割合は、男性36.4%に対し、女性41.6%と5.2ポイント女性が上回った

ポイント③

質問 3,4

- ボーナスの使途の1位は「貯蓄・資産形成」(33.1%)、2位は「生活費の補てん」(17.7%)、3位は「ローンの返済」(11.2%)となり、上位3項目で6割以上を占めた
- ボーナスの使途で「貯蓄・資産形成」と回答した方の主な手段の1位は「預貯金(円建て)」で75.0%、次いで「株式」で8.1%となった
- 支給額別で見ると、支給額の高い方ほど「株式」や「投資信託」に投資する割合が高くなった

質問 1 ポーナスの支給額はいくらでしたか？ (回答者数：3,827名)
【60代以上、無職、専業主婦（主夫）、自営業、公務員除き】

- ボーナスの平均支給額は51.5万円で(対前年+1.0万円)となった
- 男女別で見ると、男性は60.6万円で(対前年+1.0万円)、女性は31.9万円(対前年+1.0万円)となった
- 年代別で見ると、昨年度と比較して、20代以下は2.3万円増加しているのに対して、50代は0.2万円増加と、若年の方ほどボーナスの増加額が大きくなった
- 支給額別で見たボーナスの増加率は41万～60万が4.6%で最も高くなった

<年代別・男女別：ボーナス支給額>

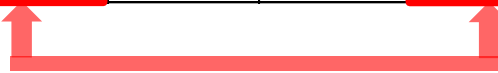
(万円)

	～20代	30代	40代	50代	全体
男性	34.7	47.8	58.6	74.7	60.6
女性	19.4	24.8	30.5	47.6	31.9
全体	27.4	38.8	50.5	67.8	51.5

<ボーナス増減額（対前年）>

(万円)

	～20代	30代	40代	50代	全体
男性	+3.3	+2.8	+0.9	-0.4	+1.0
女性	+1.1	+1.2	+0.1	+1.9	+1.0
全体	+2.3	+2.2	+0.7	+0.2	+1.0



<支給額別：占率・平均支給額・増加額（増加率）>

(%、万円)

	占率	平均支給額	増加額	増加率
支給無し	18.3	—	—	—
～20万	16.9	13.1	-0.1	-0.4
21万～40万	19.6	32.8	+1.4	+4.4
41万～60万	18.3	52.9	+2.3	+4.6
61万～80万	9.9	74.4	+2.3	+3.2
81万～100万	9.3	97.3	+2.0	+2.1
101万以上	7.6	222.6	+2.9	+1.3
全体	100.0	51.5	+1.0	+1.9

<ニッセイ基礎研究所 矢嶋康次 チーフエコノミストのコメント>



経団連がまとめた、「2017年夏季賞与・一時金 大手企業業種別妥結状況」を見ると、平均妥結額は前年度に比べて4.56%減少しました。その理由の一つは為替です。春季労使交渉が始まった年明け頃、円高が進みました。そのため、企業業績の見通しが不透明になり、ボーナス増額に慎重になったといわれています。

ただ、今回のアンケートのように一部企業では、人手確保の処遇改善でボーナスの引上げを行うところもあるようです。ますます人手不足が深刻化する中、業績の回復が続けば、その動きは広がる可能性が高いです。

質問 2-1 ボーナスは予想した金額より多いですか？ (回答者数：3,827名)

質問 2-2 【質問 2-1 で「予想通り」と回答した方への質問】

ボーナスの金額に満足していますか？ (回答者数：2,963名)

- ボーナスの額は、「予想通り」と回答した方の割合が約 8 割と大半を占めた
- ボーナスの額を「予想通り」と回答した方の満足度を見ると、「満足していない」と回答した方は 38.0%で満足している方(29.5%)を上回った
- 男女別で見ると、「満足していない」と回答した割合は、男性 36.4%に対し、女性 41.6%と 5.2 ポイント女性が上回った

<ボーナスの支給額の予想>

	予想以上	予想通り	予想以下
男性	3.9%	77.8%	18.3%
女性	3.0%	76.7%	20.3%
全体	3.6%	77.4%	19.0%

<ボーナスの支給額に対する満足度>

	満足	どちらでもない	満足していない
男性	30.4%	33.2%	36.4%
女性	27.4%	31.0%	41.6%
全体	29.5%	32.5%	38.0%

質問 3 ボーナスを主に何に使いますか？ (回答者数：3,040名)

- ボーナスの使途の 1 位は「貯蓄・資産形成」(33.1%)、2 位は「生活費の補てん」(17.7%)、3 位は「ローンの返済」(11.2%)となり、上位 3 項目で 6 割以上を占めた
- 男女別で見ると、「海外旅行」を主な使途と回答した方の割合は女性が男性の約 2 倍となった一方で、「ローンの返済」や「教育費」については男性の割合が女性の約 2 倍となった

<男女別：ボーナスの使途>

	全体	男性	女性
貯蓄・資産形成	33.1%	31.8%	36.2%
生活費の補てん	17.7%	18.8%	15.0%
ローンの返済	11.2%	13.0%	6.5%
国内旅行（宿泊あり）	9.4%	9.3%	9.6%
教育費	6.9%	8.0%	4.2%
買い物（贅沢品）	4.8%	4.1%	6.6%
海外旅行	4.7%	3.6%	7.6%
買い物（日用品）	3.9%	3.6%	4.8%
近場のレジャー（日帰り）	2.6%	2.4%	3.1%
その他	5.7%	5.4%	6.3%

質問4 【質問3で「貯蓄・資産形成」を選択した方への質問】

貯蓄・資産形成の主な手段は？（回答者数：977名）

- ボーナスの使途で「貯蓄・資産形成」と回答した方の主な手段の1位は「預貯金(円建て)」で75.0%、次いで「株式」で8.1%となった
- 支給額別で見ると、支給額の高い方ほど「株式」や「投資信託」に投資する割合が高くなった

<貯蓄・資産形成の主な手段>

	全体	男性	女性
預貯金（円建て）	75.0%	73.5%	78.4%
株式	8.1%	10.3%	3.3%
投資信託	5.5%	6.3%	3.9%
貯蓄型の生命保険	3.2%	2.1%	5.6%
金	1.4%	1.6%	1.0%
預貯金（外貨建て）	1.3%	1.2%	1.6%
不動産	0.5%	0.4%	0.7%
その他	4.9%	4.6%	5.6%

<支給額別：貯蓄・資産形成の主な手段>

	全体	～20万	21万～40万	41万～60万	61万～80万	81万～100万	100万以上
預貯金（円建て）	75.0%	80.9%	77.4%	71.6%	75.4%	79.2%	63.3%
株式	8.1%	3.7%	6.2%	10.2%	9.2%	6.6%	14.7%
投資信託	5.5%	0.6%	5.3%	5.1%	7.7%	6.6%	10.1%
貯蓄型の生命保険	3.2%	2.5%	2.9%	5.6%	3.5%	0.0%	2.8%
金	1.4%	2.5%	2.1%	0.9%	0.7%	0.9%	0.9%
預貯金（外貨建て）	1.3%	1.2%	1.6%	1.4%	0.7%	0.0%	2.8%
不動産	0.5%	0.0%	0.8%	0.5%	0.7%	0.0%	0.9%
その他	4.9%	8.6%	3.7%	4.7%	2.1%	6.6%	4.6%

<ニッセイ基礎研究所 矢嶋康次 チーフエコノミストのコメント>

ボーナスの使い道として、預金中心の貯蓄という傾向が引き続き強いようです。2016年度末で銀行や信用金庫の預金は1,000兆円を超えました。

2016年2月のマイナス金利導入以降、普通預金の金利が0.001%となるなど、低金利が続いており、預金増額も継続しています。

以上